

週刊少年ジャンプ、1972年37号
(昭和47年8月28日発行)で初出

53ページ 読切

セドキュムト
—水僕病—

契約書

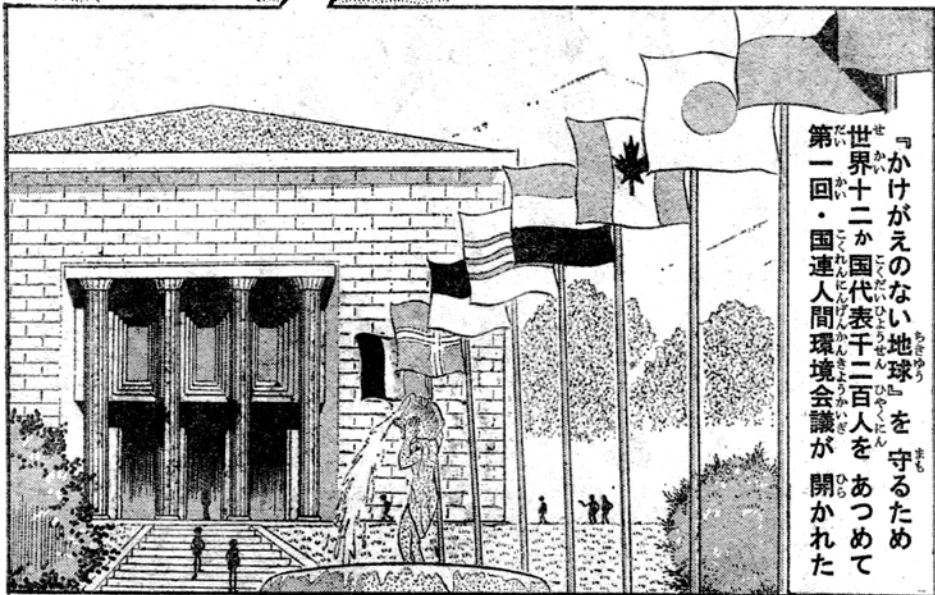
♠ 水僕^{みんぼ}の悲劇^{ひげき}をくりかえすな!

公言^{こうげん}悪^{あく}を力強^{ちからつよ}く描^{えが}く
新鋭^{しんえい}・怒^{いか}りの巨編^{きょへん}!!

篠原幸雄



昭和四十七年六月五日 スウェーデンの首都・ストックホルム



「かけがえない地球」を守るため
世界十二か国代表千二百人をあつめて
第一回・国連人間環境会議が開かれた



早期に 十分な
救助の手を
さしのべなかつた
政府の責任
であり……

まことに
遺憾のきわみで
あります



このように
多数の公害病で
死者までだして
しまった責任は……

日本から出席した
大石環境庁長官は



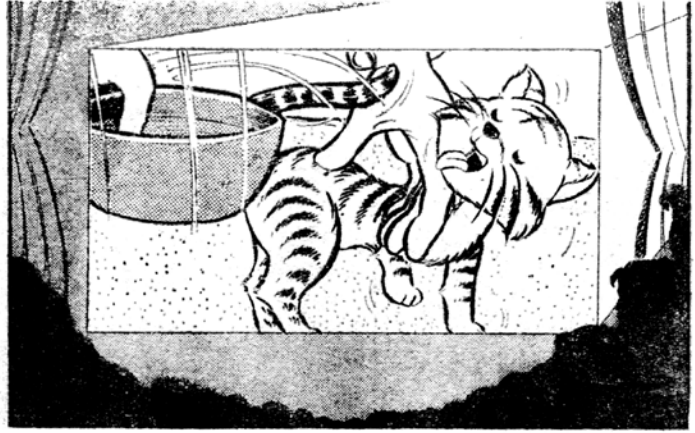
オ……
ミナマタ

ミナマタ



その公害病の
ひとつ
水俣病の患者
川上のぼるくんを
紹介します



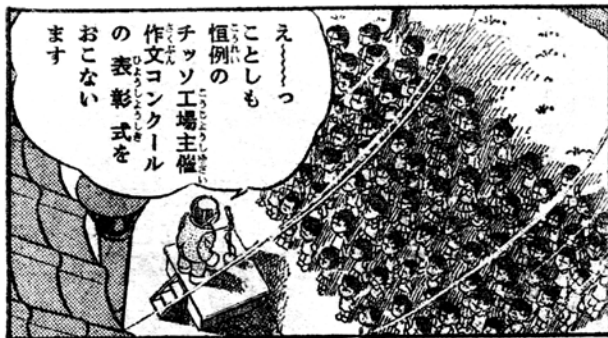


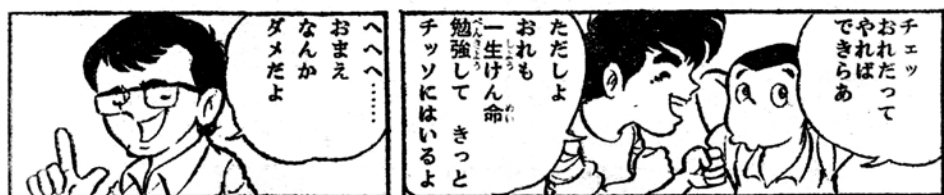
水銀により 脳細胞を おかされたネコは……

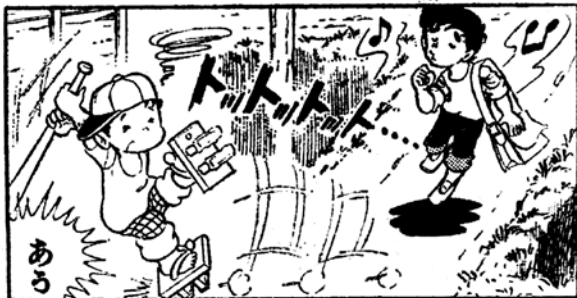


■この物語は、水俣病事件の美話にもとずいた、フィクションです。(作中人物の名前は、仮名です)

昭和四十三年夏 熊本県水俣市









ああ
あとでな

ねえねえ
にいちやん
キャッチボール
やろうよ
ねえったら



作文コンクールで
もらったんだぜ
へへへん

ホ
オリンピック
みたいだな



パン・キ
ヨ
ツツ!!



だめだよ
おれ……
勉強するん
だから!

のぼる
あそびに
いくんなら
ちつとは
うちの方も
てつだわん
かい!!



おれ
一生けん命
勉強して
将来 チッソで
働くんたい
へへへ……

これ
だつて
会社が
くれたんだもん……



やめとけ
やめとけ
おまえが
そんなこと
やつても
時間の
無駄だよ

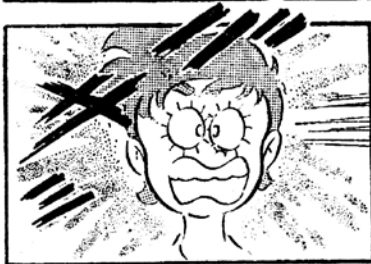
チェツ
ひでえこと
いうな

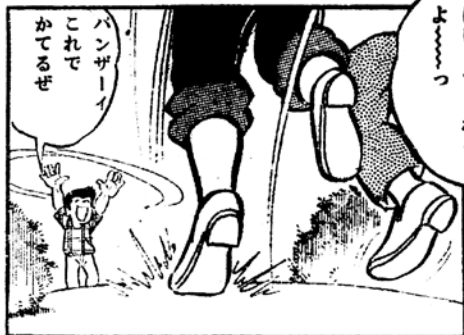


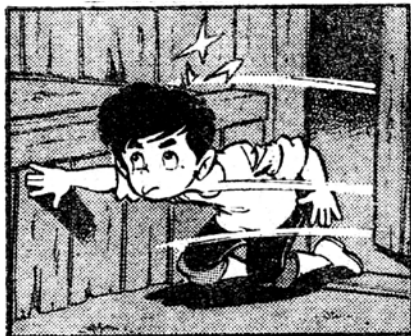
バッカヤロ

そんな
もん
すてち
まえ……っ









あれっ



おそりが
なっちゃった
から……
また
どやされる
かと思っ
ておれ
びくびく
しちゃっ
たぜ……



なんだあ
だあれも
いないんか
!?



あつ!
となりの
おばさん

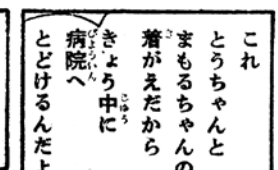
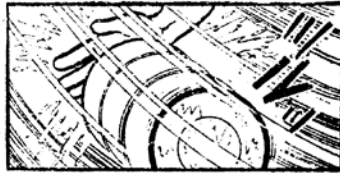
のぼるちゃん
帰ったんかっ



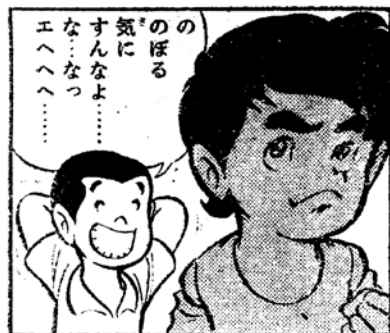
チエツ
しくてんな
なーんにも
ありやしねえ









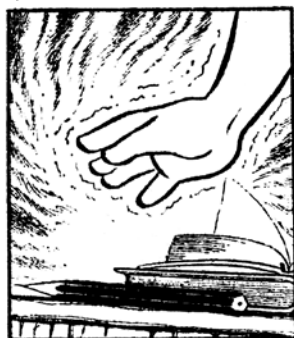


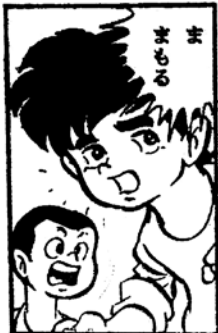


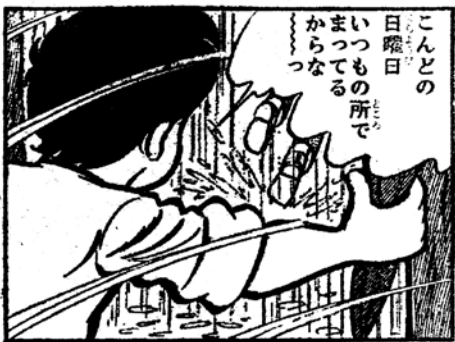
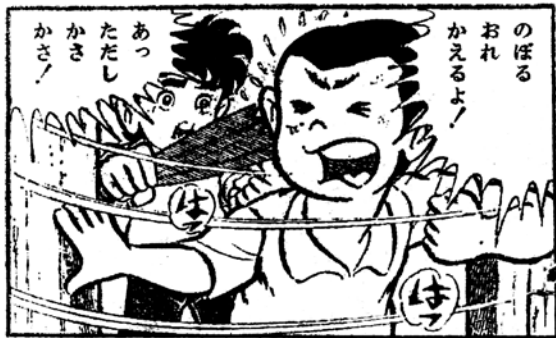




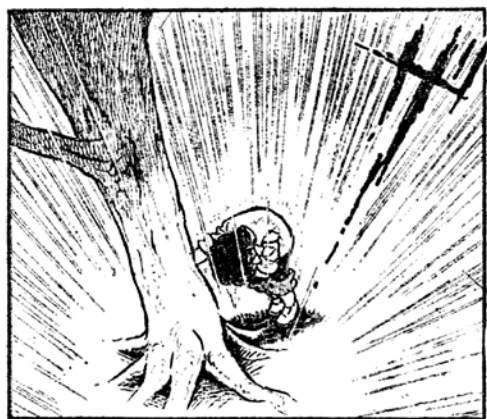


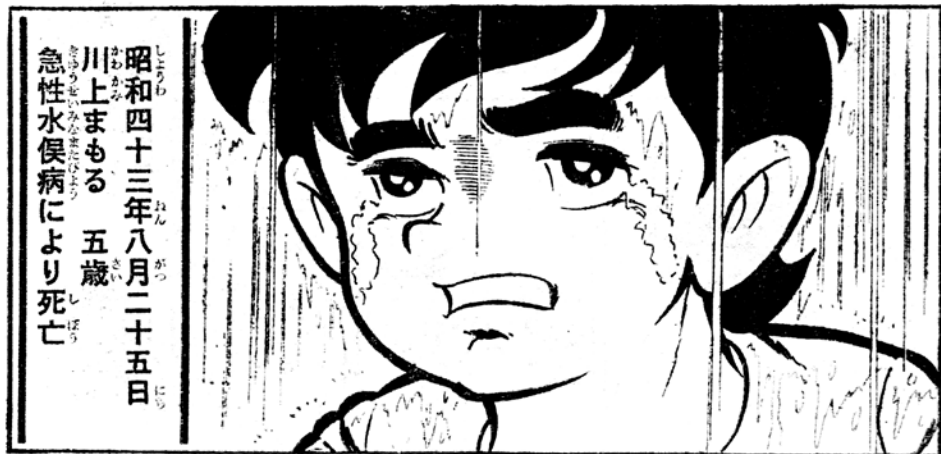


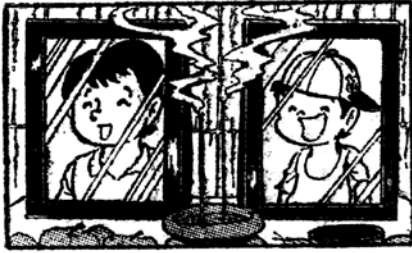


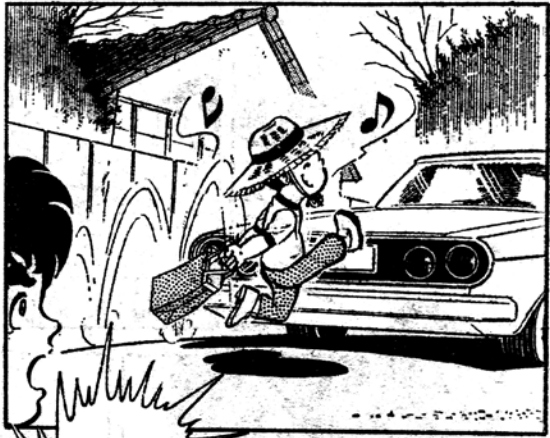
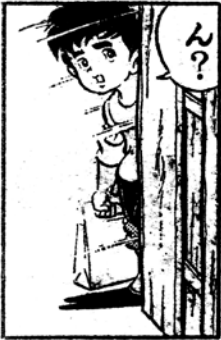


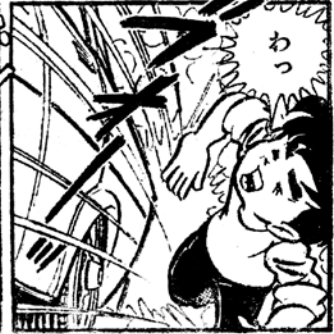
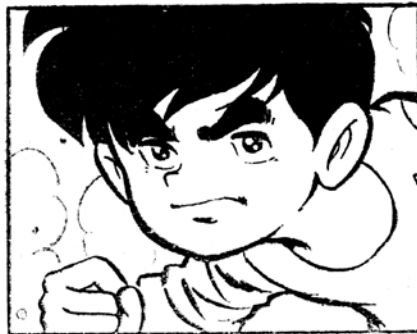
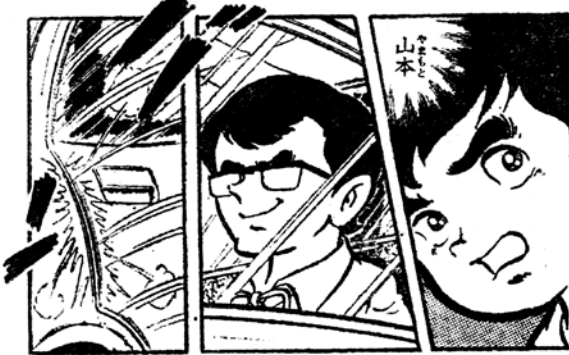


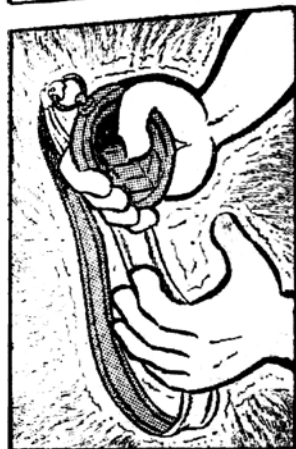






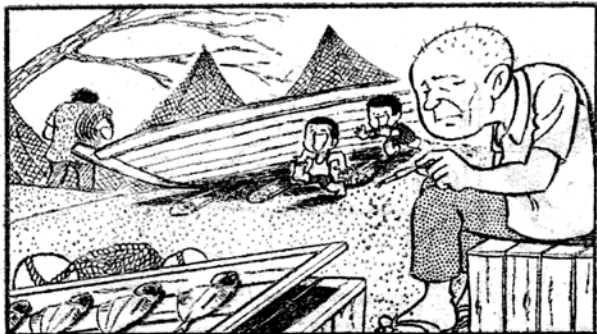












ドベ(ハドリ)が網にくっついてるだ
すぐ洗うだ!



チツソの廃液が海の底にたまってるだよ

だめだめさ
じいさま
かわりに
さかんな
下べりに
かかるだ
かかるだ

源さんや
景気は
どうだね



わしらの
さかなくると
ヨイヨイ病
なるっ
ちゅうてな

さかな屋の
組合が
わしらのとった
さかなは
売らないと
決めよつたん
じゃ

おう
どうしたんだ
みんな
あつまつてよ
源さん
えれえ
ことだ



そうじゃ
ここいらの
漁師みんな
チツソに
かけあうだよ
そうだ
そうだ

ただでさえ
さかなが
とれなく
なつちまつた
てのに……
このまま
じゃ
わしら
生きて
いけないぞ……

その時にや
チツソは
漁業協同組合に
いちおう補償金を
はらったん
だがなあ……

しかし
水俣病と
チツソは
いっさい関係ない
ちゆうて
患者とは別の
見舞金契約を
したんだ……

見舞金契約

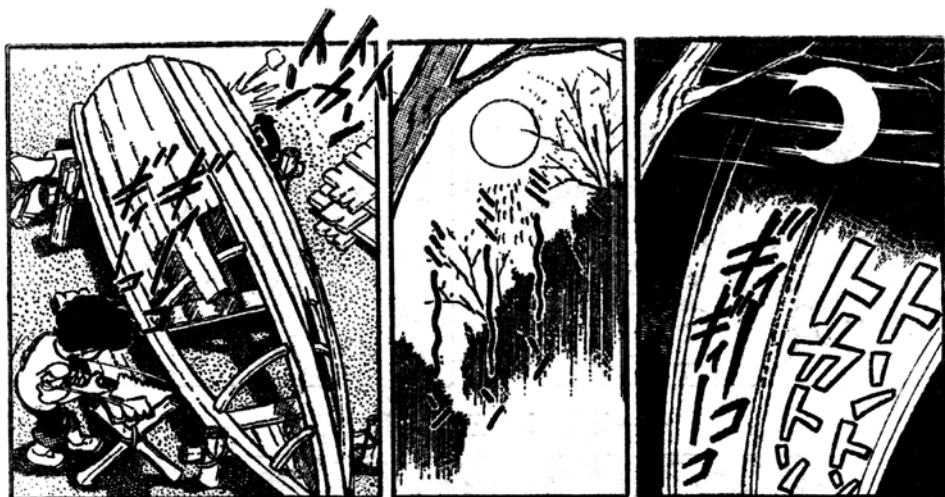
(注)

チツソは 水俣病患者に 発病時に
さかのぼって 以下の金を 支払うこととする
未成年患者(こども)に 年間三万円
成人患者(おとな)に 年間十万円
弔慰金(死んだ人)に 三十二万円
ただしもし 水俣病の原因が チツソの廃液
が原因と決定した時も これ以上のお金は
はらわれない

昭和三十四年十二月







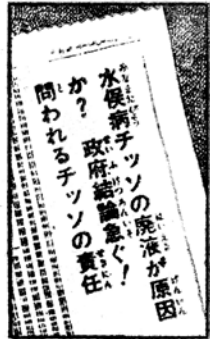


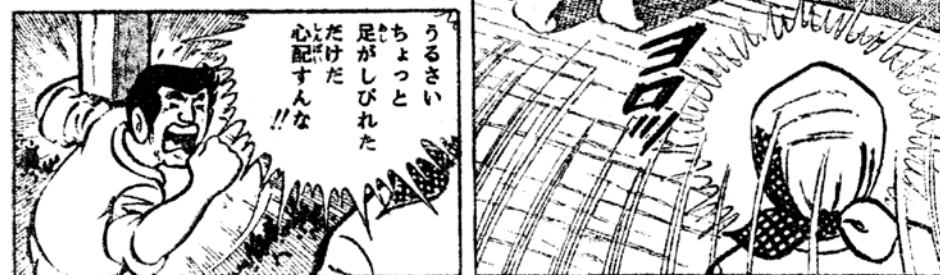
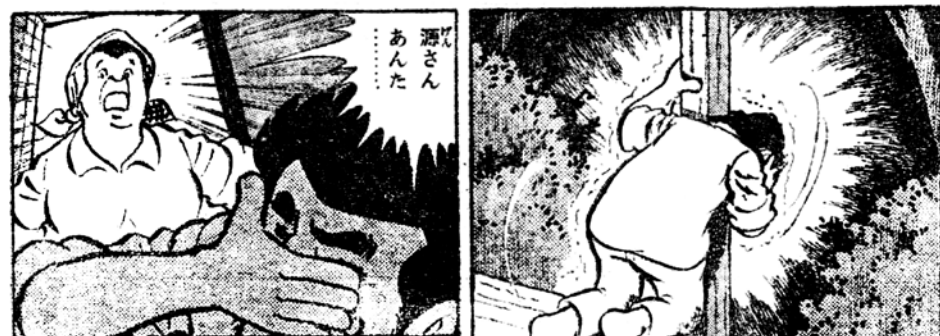
—— 昭和四十三年九月十三日 ——



水俣市主催
水俣病死者合同慰霊祭

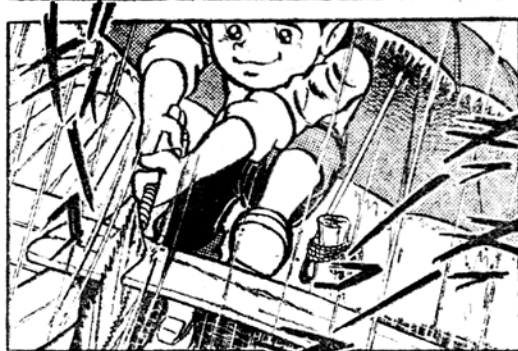
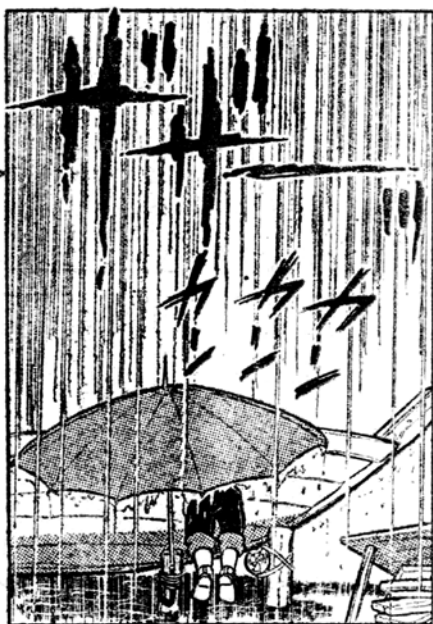


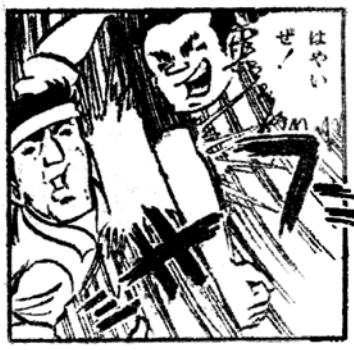


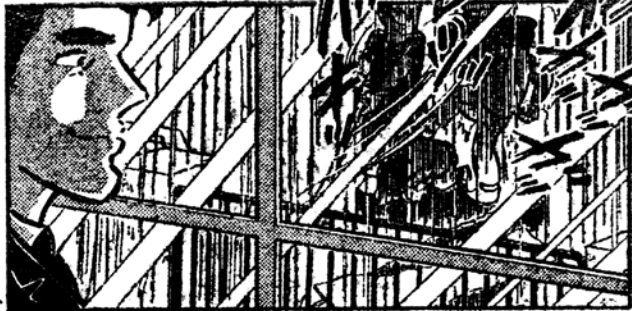












もう少しで
完成するんだから

だいじょうぶ
さ！



雨の中で
やっていると
カゼひくよ

あつ
おほさん



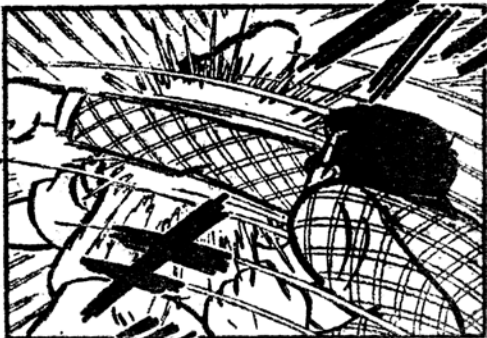
のぼるちゃん
きょうは
このへんで
やめて
やすんだら

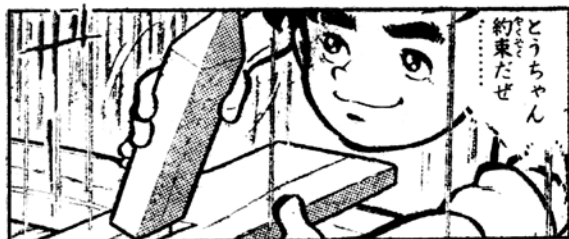


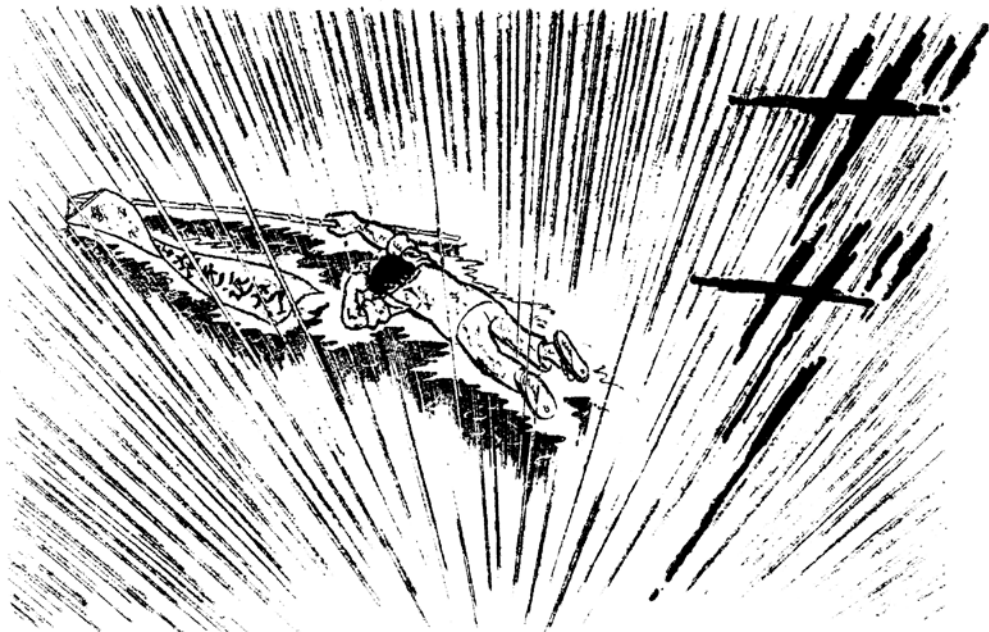
源さん
まさか
……!?

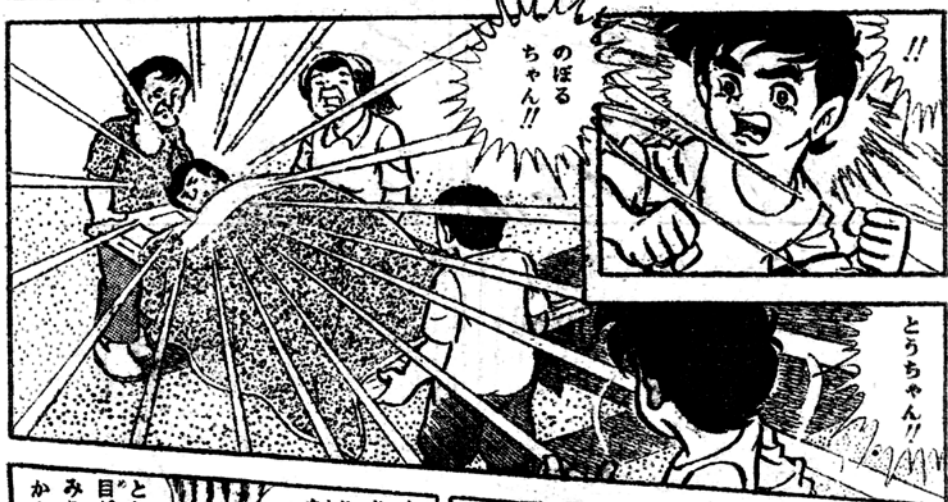


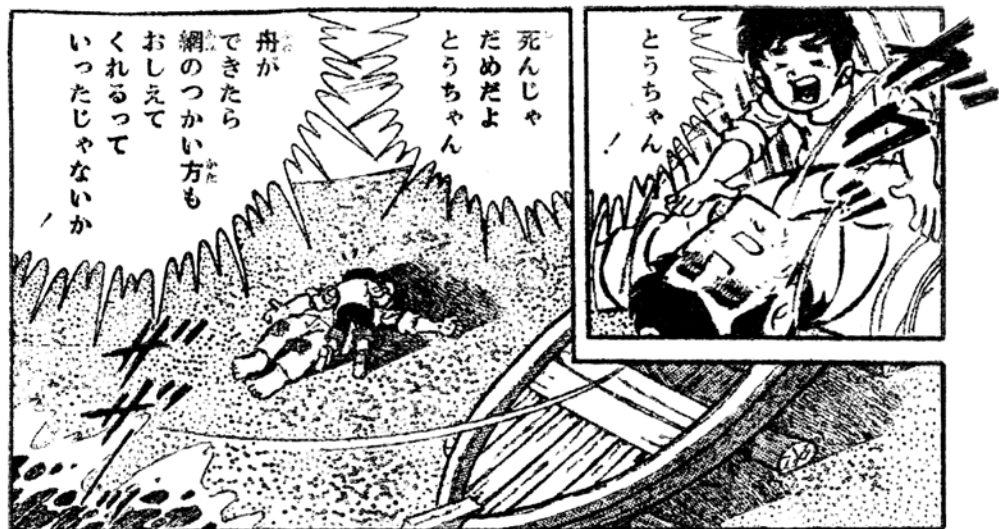
あら？
源さん
いないの
うん
ここんとこ
しばらく
のんで
なかつたから
酒でものみに
いったんじゃ
ないかな











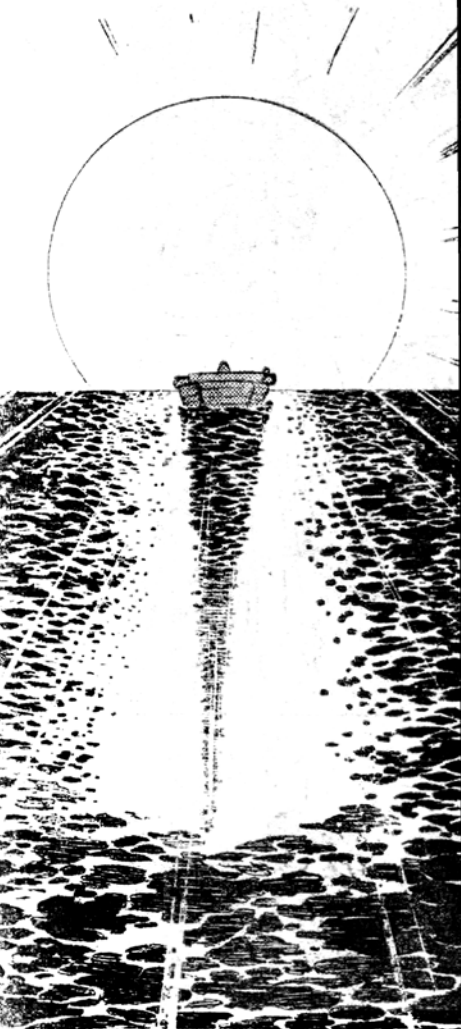
舟よ！
つれてつてくれ
とうちゃんを…

とうちゃんが
あんなに
みたがってた
きれいな
海まで…

さかなが
いっぱいどれる
美しい
海まで……

舟よ
はこんで
くれ

昭和四十三年九月二十六日
政府は、ようやく水俣病を
「チツソ廃液による公害病」と
認定した
だが、水俣病との戦いは
これからだ……美しい
公害のない『かけがえのない
地球』を守る戦いは
これから はじまるのだ……



公害のない
海まで……
おれの
おれの
とうちゃんを……

いのちの契約書 おわり